

科目名	学校教育心理学特論	担当教員	松浦 均
科目属性	専門科目A群	単位数	2単位（面接0.5単位）

**【授業の目的・ねらい】**

本授業は「学校教育心理学特論」ということで、学校に関する子どもから大人への社会性の発達、とくに自己と他者の関係性に関する発達について、以下の基本的概念について理解を深めることを目的とする。学修段階Ⅰ（前半）として、①乳幼児の意図とそのコントロールについて、②他者のこころの理解について、③子どもの相互作用について、④子どもの認知能力についてである。人間の成長発達過程において、これらの発達課題の獲得過程、獲得に必要な要素や要因について理解する。さらに学修段階Ⅱ（後半）として、学校現場において生じる様々な課題についての社会心理学的な知見をベースに考え理解を深めていく。前半後半を通して学校における心理学的課題についての理解を深めていく。

**【授業の概要】**

授業の到達目標に記載されたテーマに沿って、各回の授業内容を学習していく。具体的には次の(1)～(5)を行っていく。

- (1) 授業計画に沿ってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。
- (2) 関連する文献や参考資料を検索し、ダウンロードして読み、知識を広げる。
- (3) 課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。
- (4) スクーリングでは、最近の学術研究資料を知るとともに、研究方法についても学習する。
- (5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。

**【授業の到達目標】**

「学校教育心理学特論」では、子どもの対人関係、人間関係の在り方に焦点を当て、成長発達していく上での社会性の発達について学修する。また、社会心理学的知見にもとづく考え方を理解し、学校場面での問題や課題解決に資する知識を修得する。

授業の主なテーマと下位の目的は次のようなものである。

1. 子どもの社会性の発達過程に関して、授業で取り上げる一連の基本的な概念を理解し、多様な視点から子どもの発達を見ることができるようになること。
2. 学校現場における諸課題について、とくに社会心理学的知見からのアプローチについて理解できるようになること。
3. 文献や先行研究をレビューしながら、過去から現代までの研究の流れを理解し、また隣接領域との関係性を確認して自身の研究がどこに位置づけられるのか把握できるようになること。
4. ここで学修した子どもの発達支援に関する重要な知識を学校現場で生かせるようになること。
5. 学校現場における自身の経験と、心理学的知見との関連を見だし、理解できるようになること。次世代の子どもたちの成長発達と未来将来に対するコミットメントを持てるようになること。

**【授業計画】**

**第1回：**意図の理解と行動のコントロール テキスト①第1章～第2章

**第2回：**意図の理解と行動のコントロール テキスト①第3章  
乳幼児の社会性の発達の最初の段階について理解を深める。各章の第3節に今後の展望と教育へのヒントが書かれているので、研究課題を見つけるトレーニングにしてもらいたい。テキスト①については以下の章も同様である。

**第3回：**他者の心を理解する心 テキスト①第4章～第5章

**第4回：**他者の心を理解する心 テキスト①第6章  
「自他の心」についての理解を深める。とくに道徳性の発達、「個性」についての理解は他者の存在が前提となる。

**第5回：**他者とのやりとりを通してはぐくまれるもの テキスト①第7章～第8章

**第6回：**他者とのやりとりを通してはぐくまれるもの テキスト①第9章  
他者との相互作用とそこで生起する感情について理解を深める。

**第7回：**社会性の発達を支える認知能力 テキスト①第10章

第8回：社会性の発達を支える認知能力 テキスト①第11章～第12章

幼児の認知能力についての理解を深める。

第9回：子どものこころを理解するための社会心理学 テキスト②第1章～第3章

第10回：子どものこころを理解するための社会心理学 テキスト②第4章～第7章

社会心理学における基本的な考え方やフレームを理解し、子どもの社会的行動について理解を深める。

第11回：学級づくりに生かす社会心理学 テキスト②第8章～第9章

第12回：学級づくりに生かす社会心理学 テキスト②第10章～第11章

第13回：学級づくりに生かす社会心理学 テキスト②第12章～第14章

集団における人間の行動を理解し、学校場面における具体的な状況との関連について理解を深める。

第14回：学校と社会を結ぶ社会心理学 テキスト②第15章～第17章

第15回：学校と社会を結ぶ社会心理学 テキスト②第18章～第19章

地域、環境、災害、危機管理等の学校と社会との関係について理解を深める。

#### ○科目修得試験

##### 【評価方法】

スクーリング評価（20%）、レポート評価（40%）、科目修得試験（40%）を総合しての評価となる。

##### 【教科書】

テキスト①清水由紀・林創編著『他者とのかかわる心の発達心理学』金子書房 2012年

テキスト②吉田俊和・三島浩路・元吉忠寛編『学校で役立つ社会心理学』2013年

##### 【参考図書】

\*以下のものは参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも自分で必要な文献は検索して学修すること。

(1)林創『子どもの社会的な心の発達』金子書房 2016年

(2)L.コールバーグ 永野重史監訳『道徳性の形成 認知発達のアプローチ』新曜社 1987年

(3)N.アイゼンバーグ 二宮克美・首藤敏元・宗方比佐子共訳『思いやりのある子どもたち 向社会的行動の発達心理』金子書房 1995年

(4)マーク・H・デイヴィス 菊池章夫訳『共感の社会心理学』川島書店 1991年

(5)日本道徳性心理学研究会編著『道徳性心理学—道徳教育のための心理学—』北大路書房 1992年

(6)高木修・竹村和久編『思いやりはどこから来るの？ 利他性の心理と行動』誠信書房 2014年

(7)相川充『新版 人づき合いの技術 ソーシャルスキルの心理学』サイエンス社 2009年

(8)唐沢かおり『みきわめと対人関係の心理学 なぜ心を読みすぎるのか』東京大学出版会 2017年

(9)伊藤亜紗編『「利他」とは何か』集英社新書 2021年

(10)M.メイヤーロフ 田村真・向野宣之訳『ケアの本質 生きることの意味』ゆみる出版 1987年

(11)『教育心理学研究』『発達心理学研究』『社会心理学研究』『心理臨床学研究』などの学術誌に掲載されている論文。知見としては新しい（最近）の論文を見つけることが望ましいが、その論文の引用文献リストに並んでいる論文もチェックしておくことが研究を進めていくコツの一つである。